分野名	小児看護学	科目名	小児看護学概論
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	専任講師* *実務経験のある教員		
目的	小児各期にある対象の特徴を理解し、論理的視点を持ち、子どもとその家族に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を養う。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象と目的について述べるができる。□ 2. 子どもの権利条約の意義と特徴について理解することができる。□ 3. 小児看護における子どもの権利の尊重について述べるができる。□ 4. 成長・発達の一般的原則や影響する要因について理解できる。□ 5. 小児各期の成長・発達の特徴を述べる。□ 6. 成長・発達の評価の意義を理解し、その方法を選択できる。□ 7. 発達段階に応じた健康的な生活のために必要な援助を述べる。□ 8. 子どもと家族を取り巻く社会の変化と子どもの諸問題について述べる。□ 9. 子どもと家族の健康に関する法律について理解する。□ 10. 子どもの成長・発達への興味・関心を表現する。 		
成績評価の方法と基準	単位認定試験80% レポート課題20%		
使用テキスト・教材	ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術 メディカ出版 成長発達段階及び健康段階に応じた映像		
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で見かける子どもや子どもに関する情報に関心を持って講義に臨むこと。□ ・講義で示された課題については必ず行うこと。□ ・授業内で行った小テストについて振り返り、復習を行うこと。□ ・課題学習は講義内での留意点を踏まえ、提出期限を必ず守ること。 		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	小児看護の対象である子どもの理解□ 子ども観の変遷・小児医療、小児看護の変遷	講義	専任講師*
2.	小児看護の考え方・現状□ 小児と家族の諸統計・小児看護の特徴と役割・小児看護の課題	講義	専任講師*
3.	小児看護と倫理□ 子どもの権利・小児看護における倫理的配慮	講義	専任講師*
4.	子どもの成長・発達① 成長発達の原因と影響因子・成長発達の評価 成長発達に関する理論	講義	専任講師*
5.	子どもの成長・発達① 成長発達の原因と影響因子・成長発達の評価 形態的成長の観察と評価	講義	専任講師*
6.	子どもの成長・発達① 成長発達の原因と影響因子・成長発達の評価 形態的成長の観察と評価	講義	専任講師*
7.	子どもの成長・発達② 小児各期の成長発達の特徴: 新生児・乳児期	講義課題学習	専任講師*
8.	子どもの成長・発達③ 子どもの栄養・成長発達に伴う生活の支援: 新生児・乳児期	講義	専任講師*
9.	子どもの成長・発達② 小児各期の成長発達の特徴 幼児期	講義課題学習	専任講師*
10.	子どもの成長・発達③ 子どもの栄養・成長発達に伴う生活の支援: 幼児期	講義	専任講師*
11.	子どもの成長・発達②③ 小児各期の成長発達の特徴・成長発達に伴う生活の支援: 学童・思春期	課題学習講義	専任講師*
12.	子どもと家族を取り巻く社会① 子どもにとっての家族・社会の変化と子どもの諸問題	講義	専任講師*
13.	子どもと家族を取り巻く社会② 子どもと家族を支援するための法律・社会資源の活用	講義	専任講師*
14.	まとめ	講義	専任講師*
15.	単位認定試験		
16.			

分野名	小児看護学	科目名	小児看護学方法論 I
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	通年
担当教員	専任講師* *実務経験のある教員		
目的	健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族への看護について述べる。□ 2. 災害が子どもの心と身体に及ぼす影響について述べる。□ 3. 子どもの虐待の現状を理解し、看護の役割を考えることができる。□ 4. 子ども出現しやすい症状とそれに対する看護を述べる。□ 5. 急性期にある子どもと家族の看護を述べる。□ 6. 周手術期にある子どもと家族の看護を述べる。□ 7. 救急処置を受ける子どもと家族の看護を述べる。□ 8. 慢性期にある子どもと家族の看護を述べる。□ 9. 終末期にある子どもと家族の看護を述べる。□ 10. 発達に障害のある子どもと家族の看護を述べる。 		
成績評価の方法と基準	単位認定試験90% レポート・課題10%		
使用テキスト・教材	ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版		
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学概論で学んだ内容を想起出来る様に資料を整理し準備する。 ・各講義の前に学習内容を確認し、必要な既習学習項目の復習をする。□ ・1年次に作成した成長発達シート、デンバー発達判定法は常に持参する。□ ・講義内で示された課題学習については必ず行う。□ ・課題の提出期限は必ず守ること。何らかの事情で期限を守れない場合は連絡報告をする。 		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	健康障害が子どもと家族に与える影響と看護① 子どもの病気の理解の特徴・理解に関する要因・発達に応じた説明	講義	専任講師*
2.	健康障害が子どもと家族に与える影響と看護②	講義	専任講師*
3.	健康障害が子どもと家族に与える影響と看護③	講義	専任講師*
4.	特別な状況にある子どもと家族の看護① 災害を受けた子どもと家族の看護	講義・グループワーク	専任講師*
5.	特別な状況にある子どもと家族の看護② 虐待を受けている子どもと家族の看護	講義・グループワーク	専任講師*
6.	健康課題を持つ子どもと家族の看護① 急性症状のある子どもと家族の看護	講義	専任講師*
7.	急性症状のある子どもと家族の看護	講義	専任講師*
8.	急性症状のある子どもと家族の看護 周手術期における子どもと家族への看護	講義	専任講師*
9.	周手術期における子どもと家族への看護	講義	専任講師*
10.	健康課題を持つ子どもと家族の看護② 先天性疾患のある子どもと家族の看護	講義	専任講師*
11.	医療的ケアを必要とする子どもと家族 心身障害のある子どもと家族の看護	講義	専任講師*
12.	健康課題を持つ子どもと家族の看護③ 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護	講義	専任講師*
13.	慢性疾患をもつ子どもと家族への看護	講義	専任講師*
14.	終末期にある子どもと家族の看護 まとめ	講義	専任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	小児看護学	科目名	小児看護学方法論Ⅱ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	子どもの健康障害の特徴を理解し、看護に必要な基礎的知識を学ぶ。		
目標	1. 子どもの主な健康障害の特徴を述べる。□ 2. 各疾患の病態・診断・検査・治療を述べる。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	小児の疾患と看護 メディカ出版		
履修にあたっての留意点	・授業内で行われた小テストについては、十分に復習しておくこと。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	運動器疾患・皮膚疾患・眼疾患・耳鼻咽喉科疾患	講義	兼任講師*
2.	腎・泌尿器及び生殖器系疾患 神経疾患・筋疾患	講義	兼任講師*
3.	染色体異常・先天異常・新生児・代謝疾患	講義	兼任講師*
4.	血液・腫瘍	講義	兼任講師*
5.	内分泌・アレルギー・感染症・呼吸器	講義	兼任講師*
6.	精神疾患・発達と事故・外傷について	講義	兼任講師*
7.	循環器・消化器	講義	兼任講師*
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	小児看護学	科目名	小児看護学方法論Ⅲ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	専任講師* *実務経験のある教員		
目的	健康障害にある子どもとその家族に対し、発達段階に応じた看護を実践するための基礎的な知識と技術、態度を学ぶ。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・処置を受ける子どもの気持ちを理解し成長・発達に応じた方法で説明できる。 2. 子どもの発達段階・健康障害に応じた看護過程を展開することができる。 		
成績評価の方法と基準	単位認定試験50% レポート・課題50%		
使用テキスト・教材	ナーシンググラフィカ 小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学③小児の疾患と看護 メディカ出版		
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学概論・方法論Ⅰ及びⅡの知識を統合して学習を進めていく。 ・講義内で示される課題は成績評価の対象となるので、提出期限は厳守すること。 ・課題に取り組む際は計画的に行うこと。 ・既習学習項目の復習し、意識的に知識を活用していく。 ・疑問点はそのままにせず、自ら質問や学習を行いその都度解決するように努力すること。 		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	検査・処置を受ける子どもと家族の看護① 採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺、与薬、注射、輸液療法、吸引、酸素療法	講義	専任講師*
2.	小児看護における看護過程① 小児の看護過程に必要な主な知識・アセスメントシート作成	講義	専任講師*
3.	検査・処置を受ける子どもと家族の看護② プレパレーションの実際	演習	専任講師*
4.	小児看護における看護過程② 事例学習	講義・グループワーク	専任講師*
5.	小児看護における看護過程③ 事例学習	講義・グループワーク	専任講師*
6.	小児看護における看護過程④ 処置を受ける子どもと家族の看護 バイタルサイン測定	演習	専任講師*
7.	まとめ	講義	専任講師*
8.	単位認定試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			